

トルコ金融政策（2021年4月）

政策金利はインフレ率を上回る水準を維持する方針

2021年4月16日

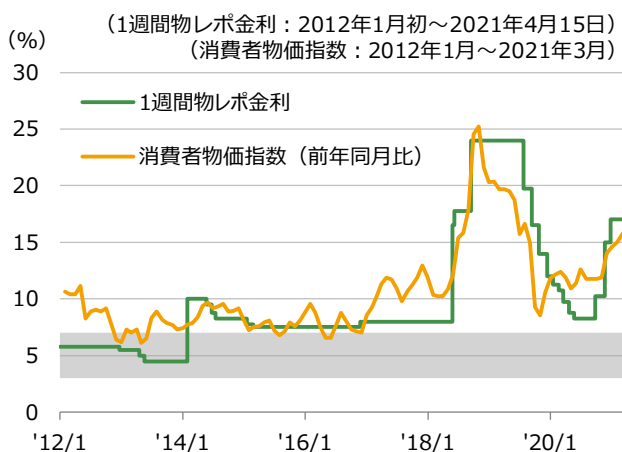
インフレ率を上回る政策金利が通貨安の進行を抑制

トルコ中央銀行は4月15日（現地、以下同様）、政策金利（1週間物レポ金利）を市場予想通り19.00%で据え置くことを発表しました。3月20日にエルドアン大統領によってアーバル前総裁が解任されたため、今回の金融政策決定会合は、カプジュオール新総裁の初陣となりましたが、決定された内容や方針は同氏の就任以降の発言におおむね沿ったものであり、サプライズはありません。

今後の方針に関する文言は、アーバル前総裁時の「インフレ率の恒久的な低下と物価の安定が示されるまで、引き締めの金融政策スタンスを断固として維持する」から、「インフレ率の恒久的な低下と5%の中期的な物価目標が達成されるまで、強力なディスインフレ効果を維持するため、政策金利はインフレ率を上回る水準になるよう決定する」に変更されました。前者は、インフレ率が鈍化し始めてもしばらく政策金利を据え置くことを示唆し、後者は、インフレ率が鈍化し始めればそれに応じて政策金利を引き下げること示唆すると考えられます。

インフレ率（消費者物価指数）は、3月に前年同月比+16.2%まで上昇していますが、資源価格の上昇などが影響して目先は更なる加速が見込まれるため、利下げに転じる環境が整うのはまだ先になりそうです。カプジュオール総裁が就任前に発言していた内容から、インフレ動向を軽視して政策金利を引き下げるのではないかと懸念する向きもありましたが、政策金利に係る新たな方針が維持される限りにおいては、高金利環境が継続する可能性が高く、通貨安の進行は抑制されやすいと考えられます。

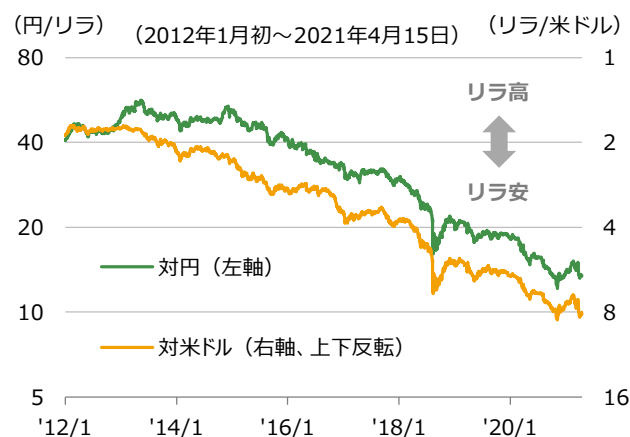
1週間物レポ金利と消費者物価指数



※陰影部はトルコ中銀によるインフレ目標のレンジ

(出所) ブルームバーグ

トルコ・リラの対円・対米ドルレート



※両縦軸ともに対数表示

(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。